

【群馬県】 群馬県立長野原高等学校

基本データ

- ① 設立年月日 2008（平成20）年4月1日
- ② 活動人数 29人（図書委員22人・読み聞かせボランティア会員6人・司書）
- ③ 主な活動場所 長野原高等学校図書館・近隣幼稚園等
- ④ 年間の活動回数 13回

団体紹介（活動を始めた動機）

長野原高等学校は、群馬県の北西に位置し、南には浅間山、北には草津白根山などの名峰に囲まれた標高628.5mの山間部にある学校です。普通科6クラス、全校生徒が192人の学校です。本校は地域に花をプレゼントする花いっぱい運動、駅の清掃活動や老人ホームでのボランティア活動をし

ているJRC部など、生徒が地域に密着した活動をしています。

平成18年度から始まった、高校図書館の一般開放では、近隣に図書館がない地域性もあり、年間来館者数、平均135人・年間貸出数、約700冊を超えています。この事業に伴って、県立図書館より、文学・実用書を50冊・絵本を100冊借受しています。

本校図書館の生徒一人当たりの年間貸出率は約15冊です。そこで普段あまり本を読まない生徒にも興味を持ってもらうと、図書館に平置き絵本コーナーを設置したところ、子供の頃に読んだ本を懐かしむように生徒同士の読み聞かせ会が自発的に始まるようになりました。一般開放時に来館する幼児・児童に読み聞かせをすることを提案したところ、図書委員と進路に幼稚園教諭や保育士を目指す生徒が中心となり、読み聞かせのボランティア活動がスタートしました。

活動内容

① 毎月2回行っている一般開放時に、月1回のペースで絵本や紙芝居の読み聞かせ会を行っています。読み聞かせをする担当人数は毎回3人で、まず個々に本を選んで練習をし、司書の永井先生に指導を受けて本番に臨んでいます。

三年に一度の長高祭（文化祭）では、図書館に舞台を作り、来校した地域の方にも大型紙芝居を楽しんでもらいました。

大型紙芝居は図書委員とボラ

ンティアによるオリ

ジナルの作品を巻き

ダンボール（絵画部

分サイズ：64×88

cm）に5ヶ月かけて

作成し、幼稚園や老

人ホームでも出張読

み聞かせ会を行いま

した。

② 活動回数

本校図書館（11

回）・近隣幼稚園（1回）・近隣養護老人ホーム（1回）

③ 研修会

群馬県読み聞かせグループ連絡協議会の出前講座「心を育てる読み聞かせ スキルアップセミナー」に参加して、絵本の選び方・読み聞かせの方法など、役立つ話を聞くことができました。

活動の広がり

一般開放時の読み聞

かせ会が、地域でも評

判となり、近隣の幼稚

園から、読み聞かせの

依頼がくるようにな

りました。これにちな

るため、幼稚園のみな

らず、老人ホームも加

えて、大型紙芝居によ

る出張読み聞かせ会

を行いました。



月1回の一般開放読み聞かせ会
（長野原高等学校図書館）



長高祭（長野原高等学校図書館）
2008年10月24・25日

活動での工夫点

巻き取り式大型紙芝居を作成し幼稚園や老人ホームなど、広い会場でも読み聞かせ会ができるように工夫をしました。聞き手側・読み手側の両方が楽しめることを基本として作成したので、楽しく活動できました。

読み聞かせ活動の魅力

「読み聞かせ会用に大型紙芝居を作ることとはとても大変ですが、小さい子供達が喜んでくれた様子を見て、作ったことを良かったと感じました。」（現図書委員長・紙芝居製作チーフ 一場夏江）



大型紙芝居作成（長野原高等学校図書館）

2008年6月～10月

「読み聞かせ会に来てくれる子供達の嬉しそうな顔を見ると自分も嬉しい。子供達に混じって大人の人達も一緒に見てくれて、読んで良かったと思えます。」（現副委員長・読み聞かせ会チーフ 桑原圭太）

受賞歴

読み聞かせボランティア大賞（奨励賞・2009年）

コミュニケーションとしての読書

【心を繋ぐ読み聞かせ】 永井美喜江（学校司書）

本校生徒の図書館利用は県内でも多いほうですが、限られた利用者となってしまうことの改善対策の一つとしてはじめたのが、絵本の導入でした。通常本は表紙が見えない状態で本棚に設置されていますが、「絵本の魅力・・・読んでもらった絵本・自分で読んだ絵本・これからは子供に読んであげる絵本」というテーマで、お薦めの絵本を表紙が見えるように平置きにしたところ、普段本を読まない生徒も手に取ってくれるようになりました。さらに子供のころに読んでもらった

懐かしい本を、友達に読み聞かせる光景が見られるようになりました。

本校は地域に公共図書館がない場所柄で、一般開放時には小さなお子さんを連れた若いお母さん方が、絵本を借りにみえます。その子供達に高校生が読み聞かせをする活動を始めたところ、子供達はもちろんのことお母さんたちにも好評でした。そして、読み聞かせをした生徒もその場で子供達の喜ぶ反応を見ることができ、読み聞かせ活動の魅力に引き寄せられていったようです。

活動を始めてすぐに紙芝居の製作案が出ました。せっかく作るのだから、広い場所で大勢の人の中でもよく見えるものがよいと、思い切って大きな巻きダンボールに絵を描いて、巻き取り式の紙芝居を作りました。初めてのことで、皆で試行錯誤を繰り返しました。放課後のみの製作には約5ヶ月も掛かり大変な作業でしたが、出来上がった作品を長高祭（文化祭）で発表したところ、生徒にも地域の方にも好評で、生徒達は大きな達成感を味わったようです。この経験から大型紙芝居製作を一作のみではなく、まもなく完成予定の第2作、また製作予定の第3作と続けていく意気込みで頑張っています。

本校の読み聞かせボランティア活動はまだ2年目に入った

ばかりです。始めはほとんどの生徒が活動に消極的でしたが、読み聞かせによる子供達とのコミュニケーションや笑顔のプレゼントが、生徒一人一人に向上心や喜びを与えてくれ、とてもよい経験になったと感じています。高校での読み聞かせボランティアはわずか3年間ですが、この経験からお父さんやお母さんになって我が子に絵本を読んであげられる人になって欲しいと願っています。これからもこの読み聞かせ活動を続けていき喜びを共有していきたいと思えます。



出張読み聞かせ会（長野原町立応桑幼稚園）

2008年12月5日